

旧大連航路上屋

かつてこの建物は、大連経由で中国、ロシア、韓国へ向かう船の国内最終寄港地だった。船は大阪から出航し、神戸で貨物を積み込み、最後に門司に寄って石炭や貨物、旅客を乗せて、日本海を渡った。この鉄筋コンクリート造りの建物は埋め立てによって水位線が160メートルも移動するより前の1929年に建てられたもので、正面にある古い係留柱はかつて客船が停泊していた場所を示している。1階には事務所、倉庫、検査施設があり、2階には電信局、荷物検査場、旅客待合室があった。

海運博物館

旧ターミナルは現在、日本の著名な船舶の模型、年代物の海運ポスター、古い海軍備品のコレクションを展示している。また、大連など北九州市と友好・姉妹都市提携を結んでいる都市を紹介するコーナーや、セーリング結びの練習ができる体験型の展示もある。

映画・芸能資料館 松永文庫

1階には映画・芸能資料館松永文庫もある。門司出身の映画記念品コレクターである松永武（1935-2018）は、2009年に自身のコレクションを市に寄贈した。数万点に及ぶコレクションは2013年にここに移され、展示されている。海事展示物の間には、『となりのトトロ』（1988年）などの古典的なアニメ映画製作を含む、初期のセル・アニメーションで使われたマルチプレーン・カメラもある。残りのコレクションはホールの先にある。